

令和5年度 学校評価報告

草加市立花栗中学校
(令和6年2月8日作成)

1 学校教育目標	
「自ら考え 心豊かに たくましく生きる」 ○学力を伸ばす生徒（知） ○豊かな心を育てる生徒（徳） ○心身共に健康な生徒（体）	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
○「学力を伸ばす生徒」を育成する授業改善 自ら考え、よりよく学びあう子どもの育成（授業力の向上） 主体的・対話的で深い学びの追究（草加っ子の学びを支える授業の5か条） ○「豊かな心を育てる生徒」を育成する活動の充実 学年・学級経営の充実（学級力の充実） 生徒会活動・学校行事の充実（主体的な取組をとおして子どもの心を育てる） ○「心身共に健康な生徒」を育成する生徒指導・特別支援教育の推進 生徒理解に基づく生徒指導・教育相談の充実 配慮を要する生徒への理解と支援 ○幼保小中を一貫した教育の研究と実践 小中学校間での情報共有と連携による効果的な指導の実践 子どもたちのための「草加市教育委員会委嘱研究」の推進 ○地域とともにある学校づくりの推進 学校運営協議会を中心としたコミュニティースクールの実施	成果 ○道徳教育の授業研究会やいのちの学習、不登校対策に重点を置き、生徒の心を育てる教育に取り組めた。他者を思いやることや自分を大切にすることをあらゆる教育活動を通して、『生徒一人ひとりの良さや可能性が発揮される学校教育の推進』に教職員一丸となって取り組めた。 ○花栗中学校区の目指す子ども像「自ら考え、心豊かに、たくましく生きる子ども」を目指し、全教育活動を通し、実践に努めた。また研究発表に向けても連携が図れた。 課題 ●学力の更なる向上に向けた取り組みを推進するとともに、「主体的・対話的で深い学び」を追求した授業改善と指導力向上を目指すこと。 ●豊かな心の育成に向けた取り組みをあらためて確認し、生徒1人ひとりに寄り添えるよう、組織的に対応すること。

4 評価表 ※評価基準 [A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○全職員が学校教育目標・方針を理解・連携・協同し、運営にあたることができた。 ○職員会議等を効率的に運営し、共通理解を図ることができた。 ●校務分掌の精選、適材化（過重・定数の加減等）を図り、働き方改革を推進する。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○研修担当教員を中心に、計画的に研修を進め、学力向上、人権教育(いのちの学習)、道徳、食育、幼保小中一貫教育等のテーマにおいて、確実に実施することができた。 ○教職員事故防止研修として、管理職研修、短時間の研修等を繰り返し実施し、教職員が当事者意識を持ち主体的に取り組めるよう、内容の充実を図った。 ○主体的・対話的で深い学びの実現に関わる授業改善と学力向上の基盤となるよりより学級経営について、計画的に実践した。 ●中堅教員をミドルリーダーとし、若手教員への支援・指導体制をつくり、管理職候補者の育成を図る。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○健康観察・安全点検により校内の衛生管理・安全管理が適切に行われた。 ○PTAと協力し、学期始めに3日間の登校安全指導を行った。また、交通安全教室を実施し交通安全への意識を高めた。 ○定期的な防災訓練、避難訓練等を実施することができた。 ○1か月に1回の頻度で安全点検を行い、修繕を迅速に行った。 ●危機管理マニュアルの見直し、全職員への徹底を図る。特に不審者侵入による避難訓練の実施を計画する。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	B	○個人情報の管理、保護のため、校内取扱規程の見直し・周知をした。 ○校舎・施設等の安全点検と修繕箇所の修繕を迅速に対応した。 ○個人情報を取扱う場合の規定を遵守し、情報流出防止に努めた。 ○会計事務に関して、校長の決済を受け、監査等も適切に行った。 ●情報管理等の点検を定期的に実施し、管理状況の把握と事故の未然防止に努める。 ●紙媒体の置き忘れ・デジタルデータの誤配布、誤送信を防ぐ仕組みを整える。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	B	○各種より等で、教育方針及び学校教育活動の内容を保護者や地域に積極的に発信することができた。ホームページを活用した情報の発信に努めた。 ○PTAと協力し、花植え作業や登校安全指導、制服のリサイクル販売等、学校環境の整備を協力して実施することができた。 ○年間5回の学校運営委員会を開催できた。地域の意見を取り入れ、開かれた学校づくりにつながった。 ●来年度は、授業参観や学校公開の開催回数を増やすこと。学期に1回の頻度で行えるよう計画している。

⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○小中乗り入れ授業を充実させ、児童の学習面の接続をゆるやかにできた。 ○教科ごとに、小中一貫教育としての系統性を持った授業を実践した。(各教科) ○道徳等研究授業等を通して授業参観を積極的に行い、小中一貫教育を推進することができた。 ●全教科、15年間を見通した計画を立てて一貫カリキュラムの見直しと更なる充実を図る。 ●職員の各園、各校の活動参観や園児・児童・生徒間の交流を推進する。
--------------	---	---	---

(様式2・中学校用②)

草加市立花栗中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> ・15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価 ・目標、方針の周知 ・授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学校経営方針を踏まえ、教育活動に取り組むことができた。 ○年間指導計画にそって、計画的に時数を確保することができた。 ○テスト前の学習会や、希望者への補充学習を行うことができた。 ○体育祭・合唱祭・修学旅行・自然教室を実施し、豊かな心を育成する大きな成果を得ることができた。 ○教育計画のもとオンライン授業・配信授業を実施し、学びの保証に努めた。 ●校務分掌について見直しが必要である。分掌組織や人数について学校全体でバランスの取れた体制を構築する。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 ・評価、評定の工夫 ・外部人材の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○授業における適切な評価・評定ができた。 ○主体的・対話的で深い学びの視点から、話し合い活動やICTを活用した授業が展開できた。 ○生徒用GIGA端末の活用を推進し、効率よく学習指導にあたることができた。 ●個別最適な学びの視点から、個々の生徒の習熟度に応じた指導方法を工夫していくとともに、より主体的・対話的な活動となるよう言語活動を充実していく。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の作成 ・各教科との関連 ・道徳実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 ・いのちの教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○2分法を主体とした指導法の研究に引き続き取り組み、全教職員実践を積み重ねた。 ○校内・小中授業研究会を行い、道徳の指導法の工夫について研究を深めることができた。 ○道徳部会を中心に教材選定や資料づくりを行う中で、道徳指導を各教科領域や学校行事との関連を図り、道徳実践力を向上させることができた。 ●二分法による指導法や指導と評価のあり方については、継続して研究する。
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・生徒会活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学級アンケートを利用した生徒主体の活動を通して、リーダーの育成や自己肯定感・自己有用感の向上に繋がる指導が実践できた。また、各専門委員会での活動も積極的に行え、学習環境の向上につながった。 ○昨年度に引き続き、生徒総会、体育祭、合唱祭、各学年行事を通して、達成感・充実感を味わわせることができた。 ○生徒総会で決議した「花中宣言」を生かした取組をすることができた。 ●小中連携・共通した取り組みを継続する。
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 ・地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○指導計画に沿った見直し・連続性のある計画的な学習活動ができた。 ○2年生は、上級学校の先生方をお招きし、上級学校の様子を知ることができた。 ○生徒の探求心を深める課題を設定し、その発表も含めて、学習を見届けることができた。 ●課題設定から課題解決ができる生徒の育成をめざし、さらに探求的な活動を意識した年間計画・指導計画の再確認と充実を図っていく。

⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、生徒理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学校生活全体を通して、生徒とのコミュニケーションを大切にし、一人ひとりの小さな変化に気づき、早期対応することができた。 ○生活習慣（生活・学習）の形成を家庭との連携で重点的に行った。生徒指導部を通じて報・連・相の徹底と共通理解をさらに深めることができた。 ○生徒指導と教育相談の2部会が連携強化を図り、個に応じた支援・指導が可能となった。 ○医療を含めた関係諸機関と連携が図れた。 ○いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、いじめに特化した対策会議を実施することができた。 ○年間5回以上のアンケートの実施や三者面談、教育相談等で諸問題の早期発見対応ができた。 ●新規不登校生徒の発生を未然に防ぐ、積極的な生徒指導に努める。 ●生徒への個別の指導・支援をチームとして対応する体制をつくる。 ●教室以外の学びの場(学習相談室)の継続運用。
⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的なキャリア教育 ・指導方法の工夫と改善 ・啓発的経験の充実 ・進路情報の収集・活用 ・職場体験活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○3学年とも計画に基づいた系統的な学習を実施することができた。 ○キッザニア東京への職業体験や高校の先生を招いての進路学習会など、体験活動や外部人材を活用した学習が計画的に実施された。 ○生徒、保護者へ進路情報を提供し、各家庭の状況に合わせた進路指導を行った。 ○卒業後の進路だけでなく、卒業後の生活や将来の生き方に関わる学習活動を実施することができた。 ●キャリアパスポートの効果的活用。
⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の個別の指導計画・支援計画に沿って学習活動を進めた。 ○校内支援体制の整備について、職員間の共通理解が図られている。 ○授業や行事、給食において通常学級・特別支援学級が計画的に交流した。 ○支援学習・交流を通して、生徒・職員ともに特別支援教育への理解が深まった。 ●生徒・保護者の一人ひとりのニーズや思いを大切に学習支援・指導の推進。
⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○週2回の読書の時間を設定し、読書活動の推進に努めた。 ○図書館司書や図書委員による図書室の整備や掲示物などで、図書室の利用環境を整え、貸出し数も増加するようになった。 ●生徒が更に活用できるように工夫をした図書館運営、教科指導における図書館利用の推進。
⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○多くの教職員がGIGA端末の活用をはじめ、ICTの活用を積極的に行った。また、校内における連絡や事務処理に活用した。 ○SNSの利用や情報モラルについて、集会やクラスで継続的に指導することができた。 ○オンライン学習に向けた教職員の研修の充実やICT機器のより高い学習効果を得るための効果的な活用の研修が行われた。 ●生徒の情報モラルの向上を目指した家庭と連携した情報教育の推進。
⑪人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○他者受容や生命尊重などの課題に関して、日常的に人権感覚の育成を行った。 ○人権教育の研修において、人権課題に関する動画視聴や人権教育育成プログラムを活用した内容に取り組み、教職員の人権に関する意識を高めた。 ●研修を生かした教育活動の推進。特にインターネットやSNSにおいても他者を思いやる心、人間関係作りについて積極的に取り組み、人権感覚の育成を図る。

草加市立花栗中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	①心の教育の充実	・体験的活動の充実 ・指導方法の工夫 ・家庭・地域社会との連携	B	○「いのちを大切に考える学習」での体験的活動を通して、内容の充実した授業ができた。 ○教科指導における指導方法を研究し、生徒が主体的に考え、表現できよう取り組んだ。 ●家庭・地域の人材を活用した教育活動の推進
	②潤いのある生活環境づくり	・学級活動等の充実 ・学級応援団との連携 ・施設設備の管理と有効活用	A	○学級アンケートを利用した生徒主体の活動を通して、リーダーの育成や自己肯定感・自己有用感の向上に繋がる指導が実践できた。 ○PTAと協力し、花壇の整備等を通して、潤いのある生活環境づくりを行い、また、美化委員が継続して管理をしている。 ○教室や廊下に生徒の成果物を掲示した。保健、食育、メンタルヘルスの観点から生徒向け、保護者向けの教材を掲示した。 ○安心安全な環境を目指し、積極的に破損箇所の確認と施設設備の点検の充実 ●敷地内(特に運動場や正門)の美化の推進
	③学びの基礎づくり (生きる力4カ条) (草加っ子の学びを支える5か条)	・目標、方針の周知 ・指導内容の充実 ・評価の工夫	A	○「草加っ子の学びを支える5か条」に沿った授業を実践した。 ○教職員アンケートを実施し、授業改善に努めた。 ●「生きる力4カ条」に関し、課題を見つけて解決に向かう指導だけでなく、生徒自らが解決に向けて積極的に行動できるよう指導する。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

・生徒のアンケートからは、全項目肯定的回答平均値は91%と高水準であり、昨年度の数値を上回っている項目が16項目中12項目あった。特に、「友達に思いやりを持って接している」96%、「ルールや約束をきちんと守って生活している」98%と肯定的回答が多かった。「家庭学習を良くしている」73%、「悩みや問題ごとがあったら先生に相談している」75%と数値は低いですが、前年度から数値の向上が見られた。

・保護者のアンケートからは、「お子さんは心身共に健康である」91%、「学校は保護者の願いに応えている」85%、「学校はお子さんのことについて家庭と連携をとっている」85%、「お子さんは楽しく学校へ行っている。」85%と高い成果を上げている。一方、「配布物を保護者に必ず渡している」65%、「お子さんの様子については、担任等と連絡をとっている」と課題も見られる。本年度も、昨年度に引き続き道徳教育の授業研究会やいのちの学習、不登校対策に重点を置き、生徒の心を育てる教育に取り組んできた。他者を思いやることや自分を大切にすることを、あらゆる教育活動を通して進め、今後も『「信頼」と「和」に基づく教育を推進する学校』に教職員一丸となって取り組んでいく。

・花栗中学校区の目指す子ども像「自ら考え、心豊かに、たくましく生きる子ども」を目指し、全教育活動を通し、実践に努めた。また研究発表に向けての連携を通して生徒の変容を見取ることができた。

6 次年度の改善策

○学力の更なる向上に向けた取り組みを推進するとともに授業改善と指導力向上を目指す。

- ・主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善の継続
- ・「全国学力学習状況調査」、「埼玉県学力学習状況調査」、「草加市学力学習状況調査」の分析を生かした具体的な学力向上の手立てと効果のある取組及び実践研究の推進。
- ・よりよい学級を目指す指導と学級経営。
- ・家庭学習の充実を図るため、学校内でのよい取組の共有と家庭との連携。
- ・全教科・領域における新学習指導要領における年間計画・全体計画等の計画的な実施。
- ・GIGA端末、情報教材を活用した効果的な学習方法や家庭学習での活用研修。

○豊かな心の育成に向けた取組を確認し、生徒1人ひとりに寄り添えるよう、組織的に対応する。

- ・生徒理解を基盤とした自己肯定感、自己有用感を得られる生徒指導。
- ・「考え・議論する道徳」を目指した道徳教育の実践。
- ・学校行事の質の向上。

○保護者、地域、諸機関と連携した生徒指導・教育相談の推進。

- ・メンタルヘルスリテラシーの視点から一人ひとりの想いや悩みに対応できる体制継続。
- ・生徒・保護者との積極的なコミュニケーション、相談体制の確立、関係機関との連携。
- ・新規不登校生徒を予防する早期発見、早期対応に努める。

○中学校区の幼保小学校等との連携を推進し、0歳から15歳の教育活動に学びの継続性を持たせる。

- ・15年間を通したカリキュラムの編成、実施。
- ・中学校区の「目指す子ども像」の共有と接続のあるカリキュラムの実施。